

# 1. 予算編成業務のあるべき姿の検討 (1/2)

現状分析の結果から得られた課題をもとに予算編成業務のあるべき姿を提案します。

## 現状の課題・困りごと

- 課題1 予算編成と財務会計のデータ連携
- 課題2 議案校正に膨大な時間がかかっている
- 課題3 システム外のEXCEL資料の作成が二度手間となっている
- 課題4 決算統計業務の自動化・効率化
- 課題5 現行の予算編成システムが抱える問題点への対応
- 課題6 システム毎のユーザ認証
- 課題7 ペーパーレス化への対応

## 検討のポイント(基本方針の大原則から)

業務継続性の確保、働き方改革への対応

ーオフィスレス・ペーパーレス

全体最適化と連携

ーデータ連携強化とシングルサインオン

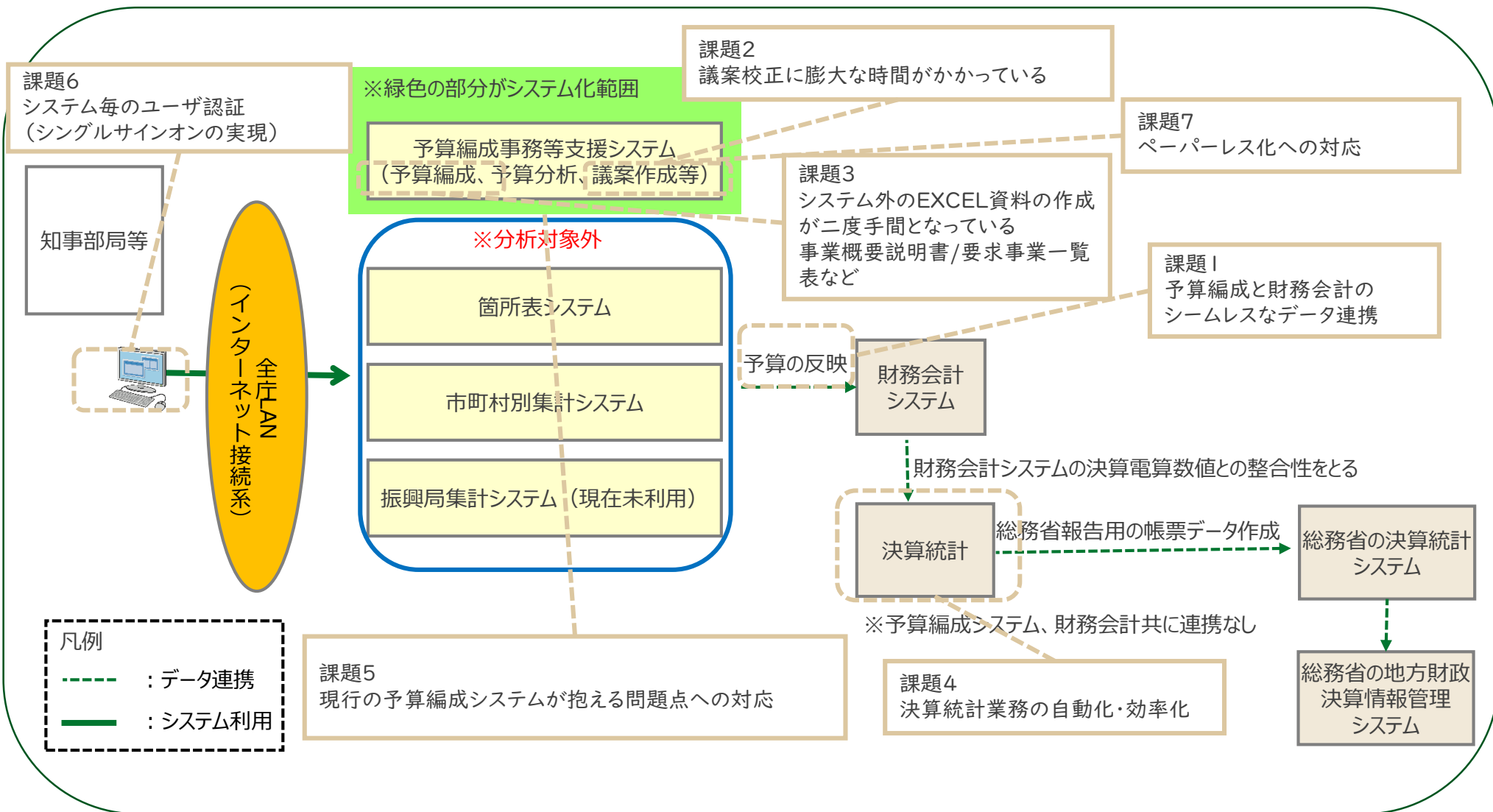
職員の利便性と県民サービスの向上

ークラウドサービス等の活用と永続的な機能拡張

## あるべき姿

- (1) 予算編成システムから財務会計システムへシームレスなデータ連携を可能とするための業務改善
- (2) 議案校正作業の見直しによる作業の効率化
- (3) 予算説明資料関係のシステム化
- (4) 予算編成システム、財務会計システム、決算統計システム間でのデータ連携と活用
- (5) 現行システム課題の解消
- (6) シングルサインオンの実現
- (7) 電子決裁、文書管理と連携したペーパーレス化

# 1. 予算編成業務のあるべき姿の検討 (2/2)



## 2. あるべき姿 (1/7)

### (1) 予算編成と財務会計のシームレスなデータ連携

予算編成と財務会計の事業を合わせることで、予算編成システムから財務会計システムへシームレスなデータ連携を可能とする

#### 現状のデータ連携の状況

- ・予算編成システムから出力したCSVデータより作成した事業別予算登録票を基に財務会計システムにデータを取り込んでいる
- ・その際に予算編成上の事業を分割または統合しているケースがあることから、シームレスにデータ連携が行えない状態となっている
- 財務会計システムへの取込前に変更作業があることから、シームレスなデータ連携が行えていない
- 決算統計のシステム化を行う際に予算編成、財務会計、決算統計各システム間での情報共有が必要となるが、その際の足かせとなる

#### あるべき姿

- ・予算編成と財務会計上の事業をイコールとする
- ・事業が異なる場合は予算編成に遡って同期する

作業を標準化する事で、パッケージ活用等を可能とする(予算編成・財務会計一体型、分離型両方のシステムに対応可能)  
決算統計業務のシステム化を視野にした作業の効率化が可能となる  
職員の作業の効率化を実現する

## 2. あるべき姿 (2/7)

### (2) 議案校正作業の効率化

議案書等のレイアウトに求める精度を見直すことで作業の省力化を行う

#### 現状のデータ連携の状況

- ・システムから出力した議案書に対する編集・校正作業の負担が大きい
- 議案書のレイアウト等に求める精度が高い

#### あるべき姿

- ・求める精度を見直すことで作業を省力化する

作業を標準化する事で、パッケージ活用等を可能とする  
職員作業の省力化を実現する

## 2. あるべき姿 (3 / 7)

### (3) システム外の予算説明資料 (EXCEL資料) の作成の効率化

必要な資料をシステムで作成することで作業を効率化する

#### 現状のデータ連携の状況

- ・予算編成システムから出力される資料以外にも、予算概要書、要求事業一覧表などの関係資料をEXCELで作成しており負担が大きい  
→ システム上での作成資料と二度手間となっている

#### あるべき姿

- ・予算編成システム上に登録した内容も流用して、システム上で当該書類も作成できるようにする

職員の作業の効率化、利便性の向上を実現する

## 2. あるべき姿 (4/7)

### (4) 決算統計業務の自動化・効率化

予算編成システムと財務会計システムのデータを活用した、決算統計システムを実現する

#### 現状の決算統計業務の状況

- ・財政課から作業指示が出た後に、各予算主管課独自に報告資料をまとめ財政課指定のEXCELに入力し回答している
- ・その後財政課でチェックを行い、誤りがあれば予算主管課に問い合わせを行いながら資料をまとめている
- この業務に係る関係職員の工数が非常に大きいものとなっている
- 財務会計システムでは、統計に必要な性質等の情報を保持していない

#### あるべき姿

- ・予算編成システムで保持している事業に関する情報を財務会計システムにも引き継ぐことで決算統計業務の自動化を行う
- ・決算統計をシステム化している事例では、予算編成または財務会計システムの一機能となっている
- 予算編成、財務会計、決算統計の3業務でのデータ連携を実現する

各システム間でデータを引き継ぎ(予算編成・財務会計一体型、分離型両方のシステムに対応可能)  
決算統計業務をシステム化することで職員の作業の効率化、利便性の向上を実現する

## 2. あるべき姿 (5/7)

### (5) 現行の予算編成システムが抱える問題点への対応

現行の予算編成システムが抱えている問題を解消する

#### 現状の予算編成システムの問題

- ・一人一台PCがテレワークに対応するためノートパソコンとなっているが、システム画面がノートパソコンでの利用を想定していない
- ・業務やシステムの熟達度に依存した操作性となっている
- ・エラーメッセージの内容が分かりづらい
- ・予算分析資料の帳票出力に膨大な時間がかかり、その間システムが利用できない
- ・要求ロック後に要求額が変更されると上書きされるため、ロック時の要求額が分からなくなる
- ・一般行政経費について、事業と一般行政経費の総額・経費内訳(特定経費・自主的経費等の区分)毎の額などが一覧で集計されていない

#### あるべき姿

- ・これらの問題が解消されるシステムとする

テレワークなどの多様な働き方に対応できる  
職員の作業の効率化、利便性の向上を実現する

## 2. あるべき姿 (6/7)

### (6) シングルサインオンの実現

現行のシステム毎にユーザ認証からシングルサインオンとする

#### 現状

- ・システム毎に異なるユーザ認証が必要

#### あるべき姿

- ・ユーザ管理を一元化し、シングルサインオンとする

職員の作業の効率化、利便性の向上を実現する



## 2. あるべき姿 (7/7)

### (7) ペーパーレス化への対応

電子決裁、文書管理と連携することでペーパーレス化に対応する

#### 現状

- ・書類の回覧、保管・廃棄の手間がかかる

#### あるべき姿

- ・PDF等の電子データで電子決裁、文書管理と連携する

#### 働き方改革への対応

職員の作業の効率化、利便性の向上を実現する